



学校だより

Email y3konan1@edu.city.yokohama.jp



2019年11月29日

横浜市立港南台第一小学校

12月号

Tel 832-0210

Fax 832-7771

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kohnandai/>

「大切なのは自分への挑戦」

校長 瀧田 健二

朝夕には、厳しい寒さを感じる時季となりました。空気が乾燥し始め、街中ではマスク姿の人々を多く見かけるようになっていきます。インフルエンザや胃腸炎などの流行も気になり始める時季です。各ご家庭でも予防に向けた取組をお願いいたします。

11月は各学年で行事や校外学習がありました。学校全体でみると非常に慌ただしい1か月でした。子どもたちは、それぞれの行事に向けて計画・目標を立て、練習を積み重ねていきました。そのような子どもたちの姿を見ていると、大きな成長を感じます。子どもたちの頑張りを認め、できるようになった喜びを一緒に感じてあげることが大切なのは言うまでもありません。一人ひとりの長所を伸ばしていくためには、周りにいる大人の役割がとても大きいと考えます。

ある日の朝会の中で、一生懸命頑張り、約束やマナーをしっかりと守っている一小の子どもたちを称賛しました。子どもたちは褒められ、認められることで自己肯定感が高まっています。しかし、現状で満足してよいか、今が100点満点だろうかとの問いかけ、さらに目標をもって「高み」に向けて頑張ることの大切さ・尊さについて話しました。

フィギュアスケートの羽生結弦選手を例に挙げました。先日行われたNHK杯で羽生結弦選手は見事優勝しましたが、自分の演技に満足しておらず、インタビュー等では、「もっとできることがあった」、「思い描く理想の自分にはまだ程遠い」と答えていたのが印象的でした。目標をもって「高み」に向けて頑張ることの大切さを、羽生結弦選手は教えてくれます。



目標をもって「高み」に向けて頑張ることは、「自分への挑戦」であるとも言えます。大切なのは「人との競争」ではなく、「自分への挑戦」なのです。人にはそれぞれ個性があり、「得意なこと」と「得意でないこと」があります。一人ひとりで自信をもてる分野が異なります。常に他人と競争するのではなく、自分の特性を發揮していく大切さを感じてほしいと思います。得意なことで勝負し、周囲の人々にも認められると、自信にも繋がっていきます。一つのことで自信がついて、さらに周囲から認められるようになると、それ以外のことにも挑戦してみようという気持ちが湧いてくるものです。この好循環を得られると最高です。気をつけてほしいのは、「自分の得意でないこと」をやらなくていいということではありません。すぐに諦めてしまうこともいけません。「苦手なこと」や「嫌いなこと」でも、どれだけ努力できるかということが大切です。「苦手なこと」に挑戦してみるということは素晴らしいことです。

学校・地域・家庭で「三本の矢」です。学校で子どもたちに話していることは、ぜひ家庭や地域でも一緒に考えていただければと願っています。